

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム 金さん銀さん		
所在地	北海道深川市音江町1丁目3番13号 (電話) 0164-25-1272		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】 (20年 12月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 17人, 非常勤 2人, 常勤換算	15.90人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨、鉄筋 造り
	3階建ての 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	管理費 20,000円 光熱水費 11,000円
敷金	有 (円) <u>無</u>	暖房費(10~5月)	8,500円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	230 円	昼食 230 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (12月 31日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	深川市立病院、吉本病院、ぬまくら歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成19年に深川市郊外の住宅街に位置し、介護付有料老人ホームとデイサービスセンターが併設され、深川市街を一望できる景観に優れた場所に開設されている。建物内は和風の装飾で落ち着きがあり、中庭があるなど、余裕のある設計の中にも、心身状況に配慮され、ゆったり感と高級感のある空間が提供されている。職員全員が協働し、利用者一人ひとりの充実感や達成感に配慮し、暮らしの中で役割が持てる生活支援に努められており、穏やかで温かなホームとなっている。管理者および職員の真摯な姿勢と、ケアサービスに関する質向上への意識が高く、今後期待が持てるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	19年12月開設で今回が初めての外部評価であり、今後の取り組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取り組みは、管理者が大まかに記載した後、職員全員に配布し協議を行ない、全体でまとめている。職員の率直な意見表出がなされ、互いに理解を深めると共に、ケアサービスの振り返りを行ない改善課題を確認し、サービスの向上に結実するよう努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの事業報告や行事の様子などを報告し、意見交換が行なわれている。しかし、会議を構成するメンバーは地域の関係者が少なく、家族と職員が大勢を占めるなど、本来の会議の趣旨から十分とはいえない。次回2月の運営推進会議より構成メンバーに町内会長、老人クラブ会長、民生委員、巡査部長等に加え、開催する予定となっており、今後ホームがより豊かに機能されるよう会議の充実を期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努め、家族から意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。管理者は、家族に意見・要望等を求める文書を送付し、意見聴取の機会としている。ホーム内での暮らしぶりやエピソード、行事予定など、家族が知りたい点を考慮しながら、情報提供が行なわれることを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、職員は町内の清掃活動や草むしりに参加し、町内会の盆踊りには利用者と共に参加している。また、近隣の保育園、中学校との交流が行なわれ、利用者の楽しみとなっている。地域密着型サービスとして、地域の方々への理解と協力は不可欠であるため、ホームの存在や役割について、わかりやすく伝える具体的な取り組みを期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性を重視したホーム独自の理念を作りあげている。職員全員に浸透し、地域密着型サービスの具現化に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎日のミーティング後に、理念の唱和を通して理念を身近に捉えており、また名札の裏に理念を印刷し、常に意識しながら、利用者への支援に努めるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、職員は町内の清掃活動や草むしりに参加し、町内会の盆踊りには利用者と共に参加している。また、近隣の保育園、中学校との交流が行なわれ、利用者の楽しみとなっている。ホームへの認識と理解を高めていただくよう考えているが、日常的な交流が図られるまでには至っていない。	○	利用者が地域の一員として暮らし続けるためには、地域の理解と協力は不可欠である。ホームの存在や役割について、地域へわかりやすく伝える具体的な取り組みを行ない、相互交流が図られることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の取り組みは、管理者が大まかに記載した後、職員全員に配布し協議を行ない、全体でまとめている。職員の率直な意見表出がなされ、互いに理解を深めると共に、ケアサービスの振り返りを行ない改善課題を確認し、サービスの向上に結実するよう努めている。		

深川市 グループホーム 金さん銀さん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの事業報告や行事の様子などを報告し、意見交換が行なわれ、サービス向上に活かしている。しかし、会議を構成するメンバーは地域の関係者が少なく、家族と職員が大勢を占めるなど、本来の会議の趣旨から十分とはいえない。次回2月の会議より構成メンバーに町内会長、老人クラブ会長、民生委員、巡査部長等を加え会議を開催する予定である。	○	地域に密着したホーム運営を具体的に進めるため、地域住民や幅広い立場の人の参加をいただき、地域に開かれた会議の運営が望まれる。また、会議の内容は報告や情報交換にとどまらず、地域ぐるみの防災対策や今回のサービス評価の結果も議題に含めながら、改善経過のモニター役を担ってもらうなど、ホームがより豊かに機能すべく会議の充実に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、ホームの状況報告や介護保険業務に関する相談など、適時話し合いの機会を持ち協働関係を継続している。また、市主催のケア会議にも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した際に日々の暮らしぶりや心身の状況を伝え、訪問できない家族には電話で伝えている。金銭出納簿は毎月家族に明細を明らかにし、家族の了解をいただいている。12月より利用者一人ひとりの毎日の心身状況、生活状況を担当職員が記載した手紙を家族に送付し喜ばれている。今後利用者の写真を取り入れた「お便り」の作成を予定している。	○	家族との信頼や協力関係を築くためには、きめ細かいやりとりは不可欠であるため、ホーム内での暮らしぶりやエピソード、ホームの行事予定など、家族が知りたい点を考慮しながら、積極的な情報提供を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族との交流を図り、気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めており、玄関入口には「意見箱」が設置されている。意見や要望が出た際には、迅速に話し合いがもたれケアに反映させている。管理者は、家族に意見・要望等を求める文書を送付し、意見聴取の機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者と馴染みの関係を継続することを大切にしており、職員の異動は最小限に抑えるよう努めている。異動や離職の際には、業務の持続性と利用者への影響に配慮した支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の能力や経験に応じて研修を受講するよう促し、研修終了後は報告会を開催し、情報の共有化に努めているが、ホームとして計画的に職員を研修に参加させる体制は、まだ十分とはいえない。	○	外部研修などから得る情報は地域密着型サービスの質の向上に役立ち、ホーム運営にも好結果をもたらすため、業務に支障のない計画的な外部の研修受講への取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、関係会議に積極的に参加し、ほかのグループホーム関係者と接触しながら、情報収集や意見交換を行なっているが、直接的な交流は行なわれていない。	○	管理者だけでなく、職員も含め、ほかのグループホームとの学習会や症例報告などの相互交流の機会を設けて、サービスの質の向上や職員育成への取り組みを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学のほか、体験入居が可能であり、相談から利用に至るまで、利用者や家族の視点に立ち、柔軟な対応を実施している。また、職員が利用希望者の自宅や病院などに出向き、利用者の求めていることや家族の話を聴き、利用者や家族が安心して納得いただけるよう、適切なサービス開始の調整を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面作りの支援が行なわれている。また、利用者から生活の知恵や料理を教わったり、励まされたり、労わっていただくなど、共に支え合う関係作りが築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から生活歴や環境、家族構成などの情報を収集するとともに、利用者の日々の言動や表情から思いや願いを読み取り、利用者本位に検討し把握に努め共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が毎日の記録を基にカンファレンスを行ない状況把握に係わるなかで、ニーズの把握に努め日常のケアに活かせる取り組みが行なわれている。家族の要望を取り入れ、職員が意見を出し合いながら、介護サービス計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直し、また、利用者の状況や状態の変化などにより見直しを行ない、職員と話し合いながらケアに反映させている。介護計画の目標に対しての記録が連動出来るように書式改定を予定している。	○	日々の記録は介護計画の目標に基づいた実践を行ない、その評価（結果、気づき、様子など）が日常的に記載された記録となるよう期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて、かかりつけ医への通院介助や外出時の付き添いなど、柔軟な支援が実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や利用者のかかりつけ医とも連携を密にし、支援を行っており、職員が通院介助をした際は受診結果等を記録し、家族に伝えている。併設施設に看護師が常勤しており、健康面についても気軽に相談することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等並びにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応は、入居時に利用者及び家族に説明し了解をいただいているが、指針は作成されていない。また、家族や利用者の意向も尊重しながら医療機関とも相談し、対処する予定であるが、重度化した場合や終末期のあり方について、明確な取り決めは明示されておらず、職員間での具体的な方針等についての話し合いは行われていない。	○	重度化や終末期に際してのあり方は、ホームを中心にできるだけ早い時期から利用者、家族、医師等で対応の確認が必要であり、ホームが対応しうる最大の支援の具体的方策について、早い時期の検討を行ない明文化される事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや羞恥心に配慮しながら、日々のケアを行なっている。ホーム内の利用者の名前、写真掲示は、利用者及び家族の了解をいただいている。書類や個人記録などの管理も十分に配慮されている。面会簿も個票となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、利用者の生活歴、体調やペースを大切に、その人らしい生活を送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事介助をする傍ら、検食の職員以外は弁当持参し、一緒に食事を取りながら優しく会話を交えて、楽しい食事ができるよう気配りをしている。利用者一人ひとりの得意分野や意向に配慮し、職員のサポートで行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や入浴日が一応定められているが、決められた日時以外でも希望があれば入浴でき、利用者一人ひとりの習慣や状況に合わせて、見守りや介助などの入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	金魚の餌やり、縫物等利用者の気持ちや力を活かす場面作りを行ない、充実感や達成感に配慮している。家事など暮らしの中での役割や趣味のサポート、楽しみごとなど、利用者の視点に立ち、豊かな生活支援に取り組んでいる。今年から畑作りをし、利用者の経験や知恵を発揮できる取り組みを予定している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、通院への付き添い、天候や利用者の希望に応じて身近な散歩、また戸外行事や外食などの外出支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は1・2・3階の他施設と共通で施錠していない。職員全員が鍵をかけない安全な暮らしについて理解しており、職員は外出傾向のある利用者把握しており、外出する様子の時には、さりげない声かけや見守りが行なわれている。		

深川市 グループホーム 金さん銀さん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施しているが、利用者が参加しての防災訓練は行なわれていない。また、町内会や地域住民への働きかけは行なわれておらず、協力体制を築くまでには至っていない。	○	利用者の安全をより確実なものとするためにも、利用者一人ひとりの具体的な避難誘導策などを検討し、また、夜間を想定した避難訓練など、不測に備える取り組みや災害時に備えた物品の準備が望まれる。また、指定の緊急避難場所を家族に周知するよう期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取量は記録され、食事カロリーや水分摂取が最適になるよう配慮している。食事メニューは併設施設の栄養士が作成しており、職員は調理方法や盛り付けを工夫し、利用者の食が進むよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームのリビングからは景観も良く、利用者や訪問者に和やかな空間となっている。季節を感じる事の出来る飾り付けが行なわれ、清潔でゆったりしており、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。温度・湿度の配慮もされており、気になる臭いもなく、音・光等も適宜調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた馴染みの家具や装飾品、利用者によっては仏壇が持ち込まれ、家庭の延長的雰囲気の中で安心して暮らせる場所となっている。居室に洗面台が設置され、使い勝手の良い居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。